

点滴用嘴体

発 願 昭 37-48678
出 願 日 昭 37.8.27
考 案 者 出願人と同じ
出 願 人 吉野弥太郎
東京都江東区大島町3の110
代 理 人 弁理士 渡辺軍治

図面の簡単な説明

第1図は本案品の縦断側面図、第2図はこの要部の一部拡大作用説明図を示すものである。

考案の詳細な説明

本案は突出部1を有する可撓性の容器2の該口部内周に密着する嘴体3において、この嘴体の中央部に設けた滴液路4を先端方向に漸次大径となるように穿設すると共に、他端部は栓部5の内方に突出するよう凹窪部6を設けて成る点滴用嘴体の構造に係るものである。

なお前記滴液路4は他端方向の約半だけストレート状の細孔7となし、かつ残余路が先端方向に近接するにしたがい漸次大径となるよう穿設するが良く、またこの滴液路4の最先端には滴点液を粒状を大にするためのテーバー8を周設しても良いものである。

また、前記栓部5の外周面には突出部9の嵌着面に周突出せしめた突出部10が密に嵌合停止するように凹部10を設けてあるが、特にこれは必要に応じて付設するが良いものである。

図中11は突出部1の外周縁に螺合せしめた

蓋体で、これは螺着時において、嘴体3の滴液路4を密に閉路するような形状にするが良いものである。

しかしてこれを使用する場合収容液体を内蔵する容器2の突出部1に嘴体3の栓部5をもつて密嵌着せしめた上で可撓性の材質よりなる容器2を指にて押圧すれば、液体は該嘴体の中央に穿設した滴液路4により外部に滴点し得るものである。

本案は前述のごとき構造よりなるものであるから、すなわち滴液路4を先端方向に漸次大径となし、かつ他端と連通するストレート状の細孔7の出口端部を栓部5の内方において突出せしめるような該栓部との間に凹窪部6を形成せしめたので使用時における液体の重量は滴液路4の他端開口に加勢することなく、凹窪部6にかかるので、液体はその重量により流下することなく、容器外方よりの押圧力により滴液路4内に滴出した液体がこれのテーバー8部で適確に粒体状にまとめ滴点として落下せしめるので使用上極めて便なる効果を有するものである。

実用新案登録請求の範囲

図面に示す通り可撓性容器2の突出部1内に密嵌着する滴液路4を有する嘴体3において、該滴液路4を先端方向に漸次大径状に穿孔すると共にこれの他端にストレート状の細孔7を連通し、かつ該細孔の開口端部が凹窪部6を介して栓部5を介して栓部5内に突出配備せしめた上、前記滴液路4の先端開口縁にテーバー8を削設して成る点滴用嘴体の構造。

図 1

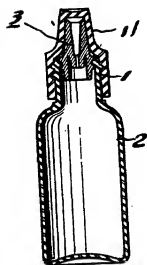
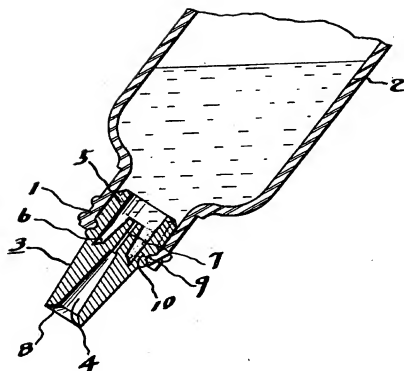


図 2



Partial Translation of -

JP 39-11991B U (Japanese Utility Model Publication No. 39-11991)

Published: May 7, 1964

Title: Instilling Bill

[Claim]

Instilling bill structure as shown in the drawings comprising:

a flexible container 2 with an opening 1 projected therefrom; and

a bill 3 for tightly fitting into the opening 1 and defining an instilling liquid passage 4,
wherein

the passage 4 has its diameter progressively increased toward a tip end (one end) thereof, and has the other end communicated with a straight fine bore 7,

the fine bore 7 has its open end extending within a plug 5 of the bill 3 through a recess 6 and the plug 5, and

a taper 8 is cut around an open rim of the tip end of the passage 4.